

## 協働ルール検討会議【第1回部会】 議事録

と き 平成13年4月6日(金) 13時30分～15時45分  
ところ 大和市役所分庁舎第2・3会議室  
参加者 委員10名  
内海部会長 林座長 河崎副座長 石間委員 市村委員 越後屋委員  
小林委員 中村委員 平塚委員 渡邊委員  
事務局：幟川市民活動課長他3名

### 議事要旨

#### 1. 全体の流れ

まず、内海委員に部会長をお願いすることが決まりました。そして、今後の進め方について、資料(内海部会長作成)に基づき議論が行われ、最後に部会長からまとめがありました。

#### 2. 主な議論・意見

「協働ルール」や「市民活動」の定義に関連して、まず定義付けを行うべきだという意見と、具体的な事例から抽象化していく、という意見があった。

「協働ルール」と「市民自治、市民参加」との関係について議論があった。これに関連して、長いスパンのなかで考えていくべき内容と今回の条例との関係整理が必要という意見があった。

「協働ルール」は「市民活動を盛んにするための協働の考え方や仕組み」などの普通の言葉に置きかえて考えるべきだ、という意見があった。

ワークシートの活用など、各委員の考えをなるべく多く出す方法が議論された。

#### 3. 決定・確認事項

進め方とスケジュールは、資料「協働ルール検討会議及び部会の進め方とスケジュール」のとおりとする(一部修正)。

部会の形態：1回の検討会議につき2回

《部会：テーマについての自由な意見交換 部会：意見集約

市のとりまとめ・インターネット等による意見収集 検討会議》

部会の議論には、ワークシートを活用する。

実態調査の結果を活用する。テーマごとに事務局で整理し、資料として提示する。

市民説明会は、秋口の第7回検討会議の前後にワークショップとの関係のなかで行う予定とする。

理念に関する長時間の議論は、夏頃の第5回検討会議の前後に行う予定とする。

日程について： 第2回部会 4/16(月) 15:00 - 17:00

以下、議事内容 進行は内海部会長

開会：13時30分

### 議題 今後の進めかたについて

- ・部会長：今日は今後の進め方について話し合いたい。特に「部会の形態」と「検討会議と部会との関係」は、今日確認したい。資料として「協働ルール検討会議及び部会の進め方とスケジュール」を用意したので、少し説明する。
- ・部会長：今後予定されている6回の検討会議のテーマを考えてみた。

第3回： 協働ルールの目指すべき方向（目的）

例えば、市民主体によるまちづくりの実現

市民自治を進めるためのルールの構築

協働ルールの範囲

例えば、市民及び市民活動団体（NPO等）の支援（狭義）

住民自治のための仕組みの構築（広義）

協働ルールの主体

例えば、市民、市民団体、行政、企業、議会など

第4回： 各主体の責務と役割

各主体がまちづくりを行う際の必要要素

例えば、支援センター、情報、場所、資金、人材など

第5回： 各主体ごとの関係整理

例えば、市民と行政の関係、市民活動と企業との関係など

第6回： 協働ルールの仕組みの検討

例えば、情報、ネットワーク、意見反映等システム

仕組みに関する提案や具体的な内容など

例えば、活動支援センターのあり方

第7回： 提案項目と内容の整理（条例項目を視野に入れて）

例えば、市民と行政の関係、市民活動と企業との関係など

第8回： 案の整理と確認

- ・部会長：検討会議と部会との関係では、1回の検討会議につき、《部会：テーマについての自由な意見交換 部会：意見集約 市のとりまとめ・インターネット等による意見収集 検討会議》、というサイクルを考えた。
- ・委員：テーマ「市民主体のまちづくりの実現」のまちづくりは、ソフト面も含めた広義のまちづくりという考えでよいか。

- ・ 部会長：そのとおり。
- ・ 委員：会議を進めるうえで、一定の枠組みが必要である。この内容で進めるべきだと思う。検討を進めていって、何かあればそこで修正すればよい。
- ・ 委員：テーマの「支援センター、情報、場所」などは、どれをとってもかなりなボリュームである。できれば参加者でやりたい項目について手をあげて、考えておくことも必要。行政の検討組織とペアを組んで考えればなお良い。
- ・ 部会長：各委員が検討したものを持ち寄れば、情報量も格段に増える。
- ・ 委員：賛成。テーマ「市民主体によるまちづくりの実現、市民自治を進めるためのルールの構築」だけでも大変な内容である。委員それぞれが好きなテーマについて考えを書くべき。
- ・ 委員：テーマ「市民と行政の関係」などは興味があるが、提言として書く部分と条例案に盛り込む部分とが出てくると思う。
- ・ 委員：今年の段階でつくるものと長いスパンのなかでつくりあげるものとの区別を、早めに決めた方がよい。第3回検討会議のテーマ「協働ルールの範囲」を「協働ルールの範囲と検討のプログラム」として、長いスパンと今回の条例化との関係整理も行ったらどうか。
- ・ 部会長：テーマは「協働ルールの範囲と検討のプログラム」に変更することにしたい。川崎市も当初は広く考えていたが、オンブズマンや情報公開など諸制度との関係もあり、提言のような内容となった経緯がある。
- ・ 委員：例えばゴミ出しのルールを守らない人もいる。ルールを守らない人や参加しない人をどうするか。イベントなどを利用していろいろな場で意見を聴きながら、多くの人を巻きこんでいくべき。
- ・ 部会長：テーマ「各主体の責務と役割」、テーマ「各主体ごとの関係整理」の市民と市民の関係、などにつながっていく内容。
- ・ 委員：広く意見を聴くことは重要だが、「協働」や「市民活動」の定義がはっきりしないなかでは、混乱してまとまりがつかなくなるおそれがある。ある程度内容を絞ってからにした方がよいと思う。
- ・ 委員：協働ルールの目指す方向・目的というのは決めにくい部分がある。泉の森のボランティアの問題ひとつをとっても、なかなか決まらない。ゴミのルールも難しい。大まかに決めるしかないだろうか。
- ・ 委員：協働ルールという言葉は事務局で用意したと思うが、事務局には事務局としての考えもあるだろう。また、抽象的な部分と具体的な部分では内容に違いも出てくる。
- ・ 委員：他市の条例を読んでみたが、なるほど、そういうものか、とイメージがわいた。市長も施政方針で「まちにコミット」と言っており、そのあたりを考えていくのかな、

と思う。

- ・ 部会長：協働ルールを定義づけた条例はない。大和は大和のルールを、私たちみんなで考えていけば良い。
- ・ 委員：ルールという固い感じがする。パートナーシップが重要であり、対等、平等にやっていくためにどういう考え方で、どのような取り決めをするのか、ということ。
- ・ 部会長：テーマ ~ は、順序を逆にして、主体、範囲を先にやった方がいいかもかもしれない。
- ・ 委員：協働ルールという私たちがつくったものではない言葉に定義付けしようとするのは難しい。まず、定義をきちんとするべき。
- ・ 部会長：今日は会議の全体の枠組み、フレームを決めたい。
- ・ 委員：定義が決まらなないと枠組みは決まらないのでは。
- ・ 委員：前回の第2回検討会議で、具体的に自分が抱える問題をぶつけて、それらに共通して流れるものをまとめていく、という話があった。定義や理念だけをやるより具体的な事例から出発した方が良いのではないか。
- ・ 委員：自分たちのNPOのことを考えると、資金、人材が大変。資金などはかなり具体的なことが言えるぞ、という感じである。
- ・ 委員：協働ルールという言葉も、「市民活動を盛んにするための協働の考え方や仕組み」などの言葉に置きかえて考えるべきだろう。
- ・ 委員：具体的な事例を抽象化するという作業が必要なのでは。まず自分の問題として考えながら、それを整理していくべき。
- ・ 委員：第2回検討会議のポストイットの意見で「ワークシートを活用する」という意見があったが、テーマに関する自分の問題や意見をワークシートに書き込んでいくのも良い。また、会議の席上で発言しなくてもポストイットに書いて事務局に渡す方法もとるべき。
- ・ 委員：それぞれが自分の背景でぶつけあうと、話がかたよるのではないか。具体的な例を出すにしても、共通して考えられるようなものにすべき。
- ・ 委員：まずエゴを出す、ということは大事。考えをぶつけあっているうちに、お互いに学習し、だんだんポイントがわかってくる。せっかく多様な人が集まっているのだからそのメリットを活かすべき。
- ・ 委員：具体的な問題を出す、と言っても全部の問題を解決することを考えるわけではない。まず出してみて整理して次につなげようということである。
- ・ 部会長：資料で提示した検討サイクルはそのようになっている。1回の検討会議の前に部会を2回開き、1回目はそのテーマについて言いたいことを出し合う、2回目はそれを整理して意見集約する、という流れ。
- ・ 委員：定義がないなかで、集約ができるのか。何を基準に取捨選択するのか。

- ・委員：協働ルールとは精神論だと思う。大和市をよくしよう、ボランティアをしよう、という意識が市民の間で広がっていくようなルールづくりができないか。
  - ・部会長：これまでの会議は、行政がたたき台を提示してそれを市民が議論する、というものだったが、今回は委員みんなで作ろう、という試み。これを進めるなかで、ひとつのルールも浮き彫りになるかもしれない。
  - ・部会長：ワークシートは良い。意見でも問題点でも各自で書き込んで、部会に臨んでほしい。部会での材料が増える。
  - ・部会長：部会の回数は、検討状況に応じて臨機応変に考えたい。
  - ・委員：ワークシートを使って、なるべく多くの問題点が出るようにすべき。
  - ・委員：うまくいった例もあった方がよい。
- 
- ・委員：市民参加の理念については、別につっこんだ議論が必要ではないか。ワークシートで問題点を吸い上げる、という性格とはちょっと違うと思う。
  - ・委員：協働の理念と、市民自治・参加の理念とは違う。協働の理念をどこまでやるか、という点も課題。ただ、今回の検討で、市民自治・参加の理念についても見えてくるところがあると思う。テーマの最初と最後に議論する機会があるので、そこで考えてみたい。
  - ・部会長：理念自体を議論する、ということではなく、どの部分を議論するのか確認するということが。
  - ・委員：そうである。
  - ・委員：協働に関する認識を深めるために、市民自治、市民参加についての意見交換もやりたい。
  - ・委員：協働ルールを検討していけば、当然市民自治、市民参加について議論する必要があると思う。そのなかで長いスパンで考えるもの、今回条例化していくもの、の違いを明らかにしたい。
  - ・委員：理念については1日かけて、長い時間じっくりと議論する場を設けるべき。
- 
- ・部会長：今まで、担当制、ワークシート、市民説明会(市民の意見をきく)、長い議論の場(1日かけて理念をじっくり) というような提案が出ているがどうか。
  - ・委員：担当制については、割り振るというよりは、自分なりに興味があるところに手があがっていけばいい。私は、資金などには興味があって書いてみたい、と思うし、同じようにいろいろ手があがるのではないか。
  - ・部会長：ワークシート+ ということが。
  - ・委員：ワークシートは、「困っていることは何か」「テーマ(柱)との関連」「アイデア・意見」のように、自分の問題をルールにつなげていけるような内容にすべき。

- ・委員：ワークシートのフォーマット作成は、渡辺委員にお願いしたい。
- ・委員：実態調査の結果もうまく検討に活かせるように工夫したい。
- ・部会長：実態調査については、事務局でテーマごとに整理し、資料として提示してほしい。それから、各委員の作成したワークシートのコーディネートは、渡辺委員にお願いしたい。私はまとめを行う。検討会議用の資料とりまとめは、事務局にお願いしたい。
- ・部会長：市民説明会は、委員が説明していく方法をとりたいがどうか。
- ・委員：賛成だが、やる時期は考える必要がある。ある程度まとまった段階でやった方がよい。
- ・委員：協働ルールワークショップが予定されているので、それとあわせれば良いのでは。
- ・部会長：市民説明会は、秋口の第7回検討会議の前後にワークショップとの関係のなかで行う予定としたい。
- ・部会長：長時間の議論は、夏頃の第5回検討会議の前後に行う予定としたい。何かを決めるのではなく議論中心の内容としたい。

- ・部会長：それではまとめをしたい。

進め方とスケジュールは、資料「協働ルール検討会議及び部会の進め方とスケジュール」のとおりとする。

部会の形態：1回の検討会議につき2回

《部会：テーマについての自由な意見交換 部会：意見集約

市のとりまとめ・インターネット等による意見収集 検討会議》

部会の議論には、ワークシートを活用する。

実態調査の結果を活用する。テーマごとに事務局で整理し、資料として提示する。

市民説明会は、秋口の第7回検討会議の前後にワークショップとの関係のなかで行う予定とする。

長時間の議論は、夏頃の第5回検討会議の前後に行う予定とする。

- ・部会長：日程について確認する。

第2回部会 4/16(月) 15:00 - 17:00

第4回検討会議の変更

5/21(月) 午後 5/21(月) 午前 or 5/24(木) 14:00 ~

閉会：15時45分

(記録者：市民活動課 井東)